水のいろどり：水を飲み比べてみよう

理学部　物質循環学科　戸田研究室と福島研究室の仲間たち

昨今は水ブーム。お店の目立つところにペットボトル入りの飲料水が所狭しとおかれています。少し前であれば、ただ同然と思われていた水が、今では立派な商品です。ヨーロッパでは、水筒やビンを持って出掛けるのがずいぶん前から当たり前でしたし、どこのレストランでもミネラルウオータと称してビン入りの水がコーラと同じくらいの値段がついて有料です。昔から少なくとも飲料水には不自由することの少なかった日本ですが、ヨーロッパ並みに水にも気を配らなければならなくなって来てしまったんですね。本当に住みにくい世の中になったものです。

日本の背骨に位置する長野県は、日本の中でもとくに水に恵まれたところです。ここ松本盆地は、年間平均の降水量が 800 ㎜ほどで東京の半分しかありませんが、3,000m 級の北アルプスや 2,000m を超える美ヶ原に降る雨や雪のおかげで豊かな湧水に恵まれています。松本市や塩尻市の主な水道水源となっている奈良井川は、中央アルプスから流れ出したもので、夏の渇水期でも豊かな水量をたたえています。山に入ればさわやかな沢の水が、登山客やハイカーの目やのどを潤してくれます。安曇野では年中水温の変わらない湧水のおかげで平地でもわさびが作られています。

それでも水を買い求める人は少なくありません。家庭では浄水器をつけている人もいます。殺菌に使われている塩素の臭いが気になり、単においしい、まずいだけでなくて、飲料水の水質に不安を感じる人が少なくないのかも知れません。そこで今回はもう一度「水」を見直してみましょう。松本市内の湧水、市販されているミネラルウオーター、「まずい」と言われる水道水の「味」ってどんなでしょうか？今回はこれらを使って皆さんの味覚を試していただくこと（効き水）を考えています。味の違いはカルキ臭さだけで決まるのでしょうか？